

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 16 年度 第 2 号

2004 年 9 月 30 日

北海道立函館水産試験場室蘭支場 Tel : 0143-22-2327

Fax : 0143-22-7605



平成 16 年度道南太平洋海域におけるスケトウダラ漁況の見通し
道南太平洋海域のスケトウダラ漁況についてお知らせします。
(内容は各協議会総会、会議等で報告したものです)

資源は中水準で増加傾向にあり、今期の来遊資源量は前年より増加すると予想されます。これに伴い、漁獲量も前年より増加するでしょう(全漁業込みで8万トン前後)。漁獲物は小型魚(40cm前後)の比率が高くなるでしょう。計量魚探調査の結果から見て、漁期前半の10、11月の漁獲量は2万トン前後の低い水準で推移するでしょう。漁場は例年同様水深300m前後に形成され、漁期が進むにつれて浅くなるでしょう。平成17年度以降の情報：2000年級群より後には卓越年級がでていません。

1. 今漁期、豊度の高い平成12年生まれの魚(2000年級群)が4歳魚として新たに資源に加わることから、資源は前年より増加すると予測されます(図1)。これに伴い漁獲量も増加すると予想されます。
2. 今年度は4歳魚が漁獲の主体を占めると考えられるので、漁獲物は尾叉長40cm前後の小型魚の比率が高くなると予想されます。
3. 9月に実施された金星丸による魚探調査では、道南海域全体のスケトウダラ分布量が平成13年以降では最も高かったものの、漁期前半から漁獲量の多かった平成10、11年と比較すると低い値でした。この結果から、漁期前半の10~11月の漁獲量は2万トン程度の低い水準で推移すると予測されます。平成12年度以降魚群の来遊時期が遅くなり、漁獲時期も漁期後半にずれていました(図2)。昨年度は例年並に近づいてきましたが、今漁期も来遊がやや遅れていると考えられます。漁獲は11月後半より増加していくと予想されますが、10月下旬および11月下旬に実施予定の魚探調査で詳しい状況が報告できると思います。また、魚群は例年同様水深200~400mの範囲(中心は300m前後)に観察されました。(魚探調査の詳細は、スケトウダラニュース1号を参照してください。)
4. 釧路水試が実施している道東海域の1歳魚を対象とした計量魚探調査の結果では、平成13年以降豊度の高い年級群の出現が見られていません。今年度の主体となる4歳魚(2000年級群)を大事に利用していくことが大切です。
5. 今年度は10月下旬、11月下旬、1月中旬に計量魚探調査を予定しています。結果は、11月上旬、12月上旬、1月下旬にスケトウダラニュースで報告する予定です。

スケトウダラニュースは pdf ファイルで函館水産試験場ホームページからもご覧になれます(10月1日から)

ホームページアドレス <http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/hakodate/>

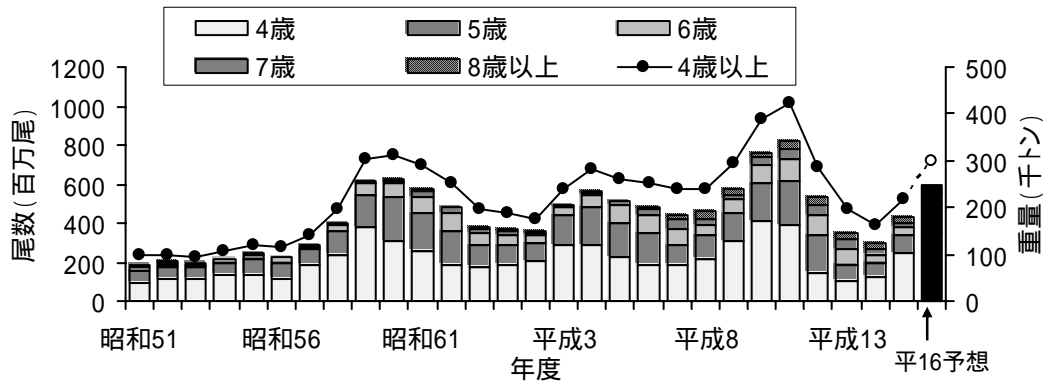


図1. 道南太平洋海域のスケトウダラ資源尾数（棒グラフ）および重量（折れ線グラフ）の経年変化

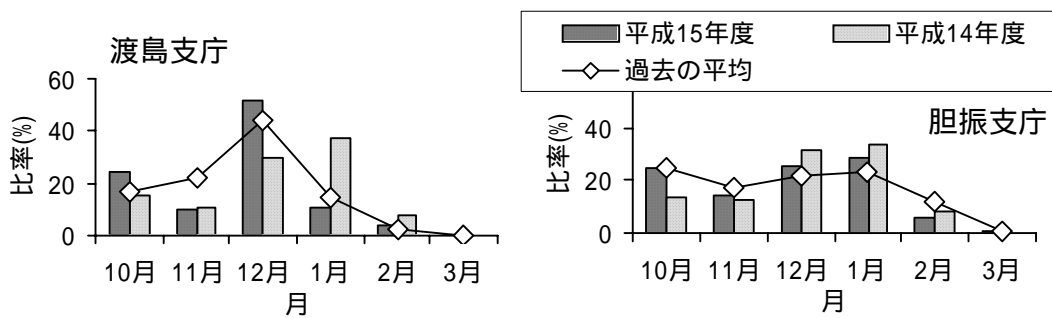
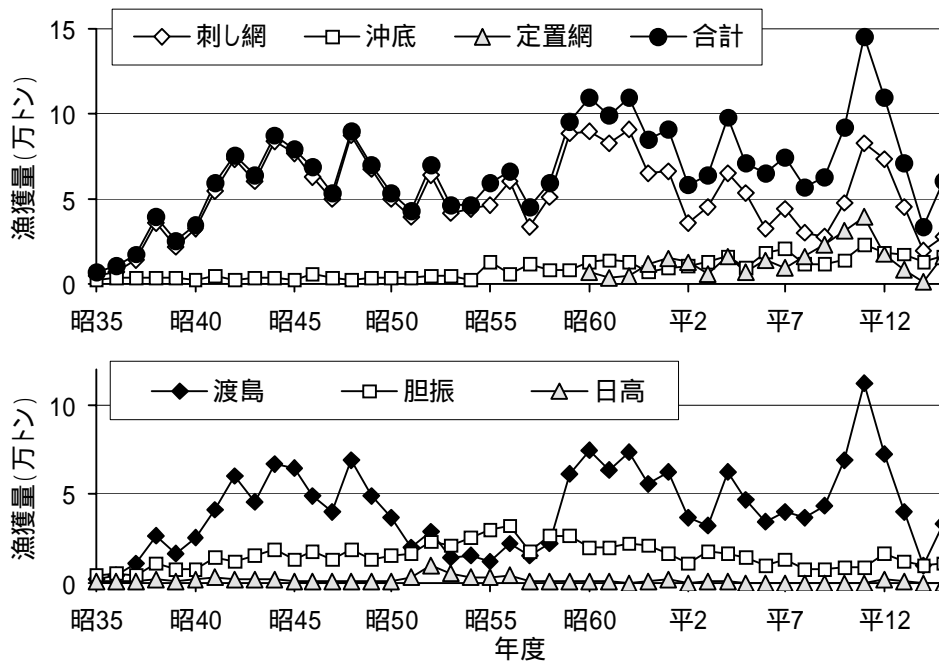


図2. 渡島および胆振支庁の刺し網漁獲量の月別比率
棒グラフ：平成14年度、折れ線グラフ（昭和60年～平成13年度の平均）



参考図. 道南太平洋海域の漁業別（上）支庁別（下：刺し網・定置網）スケトウダラ漁獲量